

令和4年度愛知県臨床検査技師会 精度管理調査報告

細胞検査部門 愛知県臨床検査精度管理調査報告

日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院
病理検査課 新田憲司

COI開示

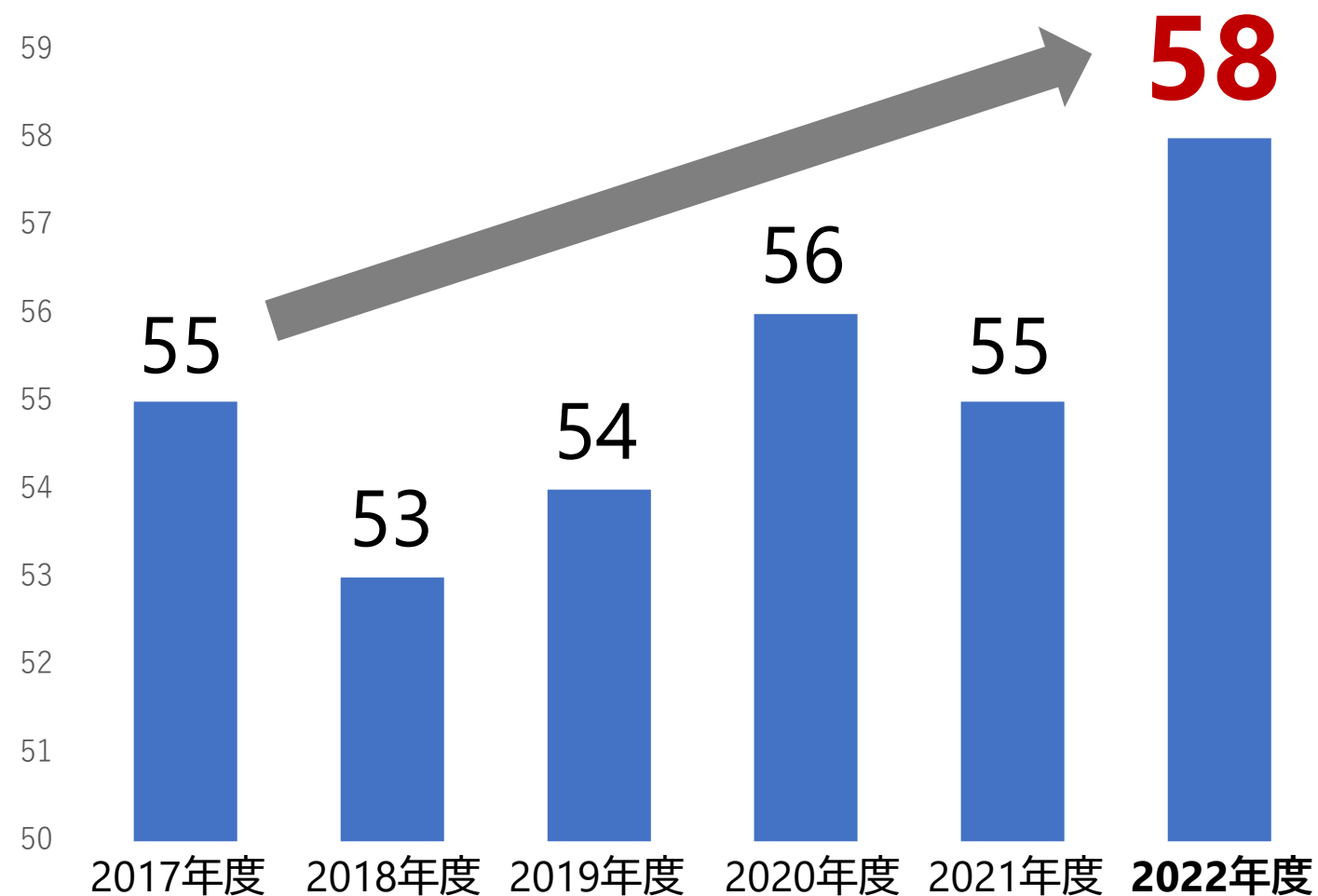
愛知県臨床検査技師会 精度管理調査報告

発表者：新田 憲司

本発表に際し、開示すべきCOIはありません

令和4年度 細胞検査部門フォトサーベイ 参加施設

参加施設数



今年度の参加施設

58 施設

過去5年度分と比較して

最多

細胞検査部門フォトサーベイ

□ 問題

評価対象問題を**10**題出題

□ 回答方式

推定される病変(組織像)を**5**つの選択肢から選択

□ 評価

正解のみを評価**A**とし、不正解を評価**D**と設定

設問について

□ 評価問題10題

子宮頸部 1 問

子宮内膜 1 問

呼吸器 2 問

体腔液 1 問

乳腺 1 問

甲状腺 1 問

泌尿器 1 問

消化器 1 問

唾液腺 1 問

設問解答

設問1	HSIL:高度異形成	設問6	粘液癌
設問2	類内膜腺癌 G1	設問7	濾胞性腫瘍
設問3	扁平上皮癌	設問8	高異型度尿路上皮癌
設問4	腺癌	設問9	消化管間質腫瘍
設問5	腺癌	設問10	多形腺腫

フォトサーベイ調査結果

設問	正解率(%)	
設問1	31%	評価対象外
設問2	100%	
設問3	100%	
設問4	94.8%	
設問5	65.5%	
設問6	98.3%	
設問7	89.7%	
設問8	79.3%	
設問9	100%	
設問10	100%	

設問1 (評価対象外)

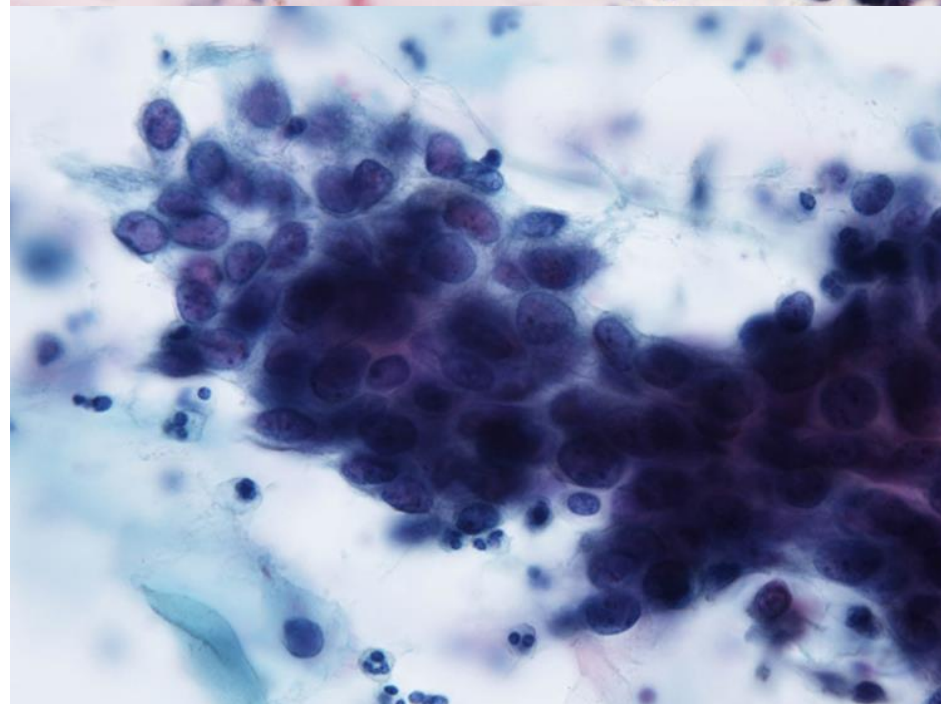
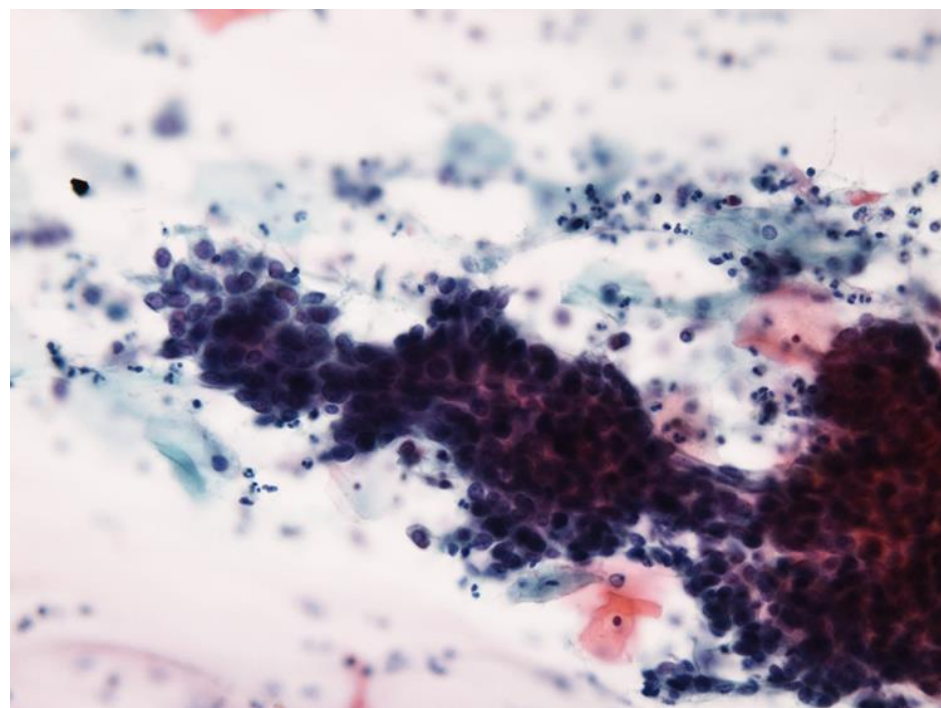
年齢 : 40代

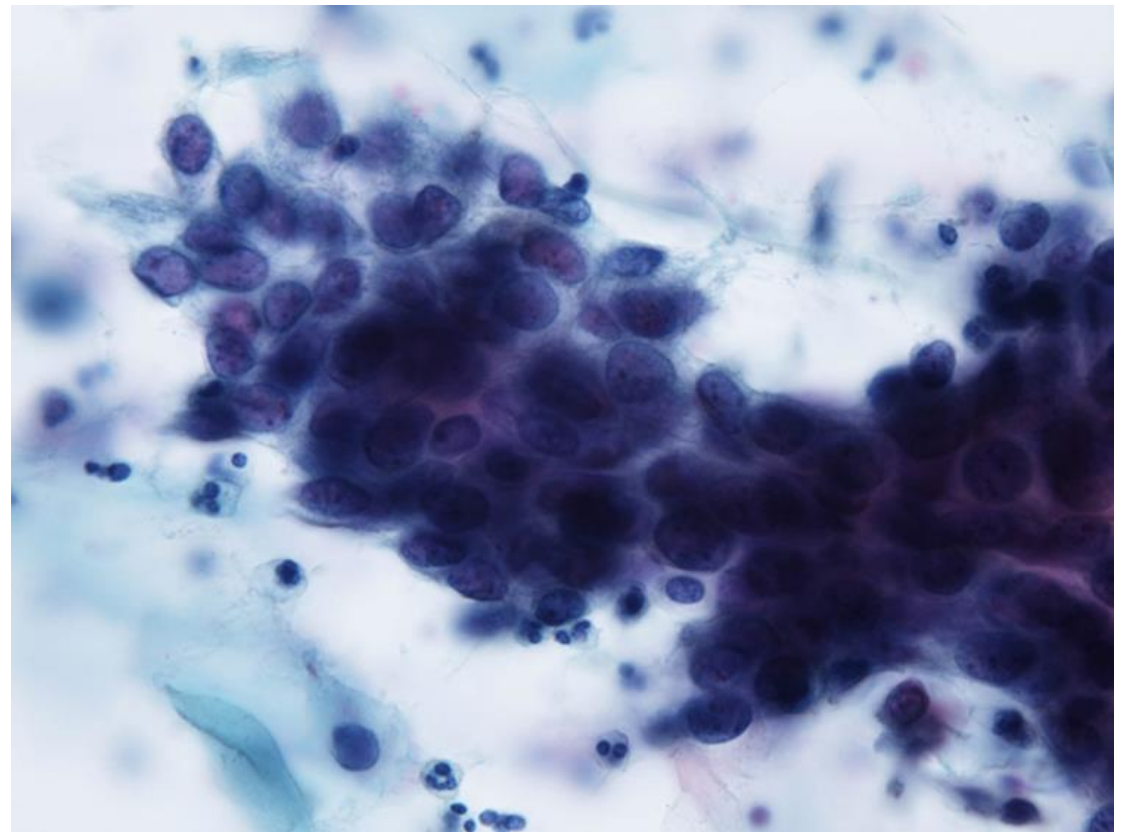
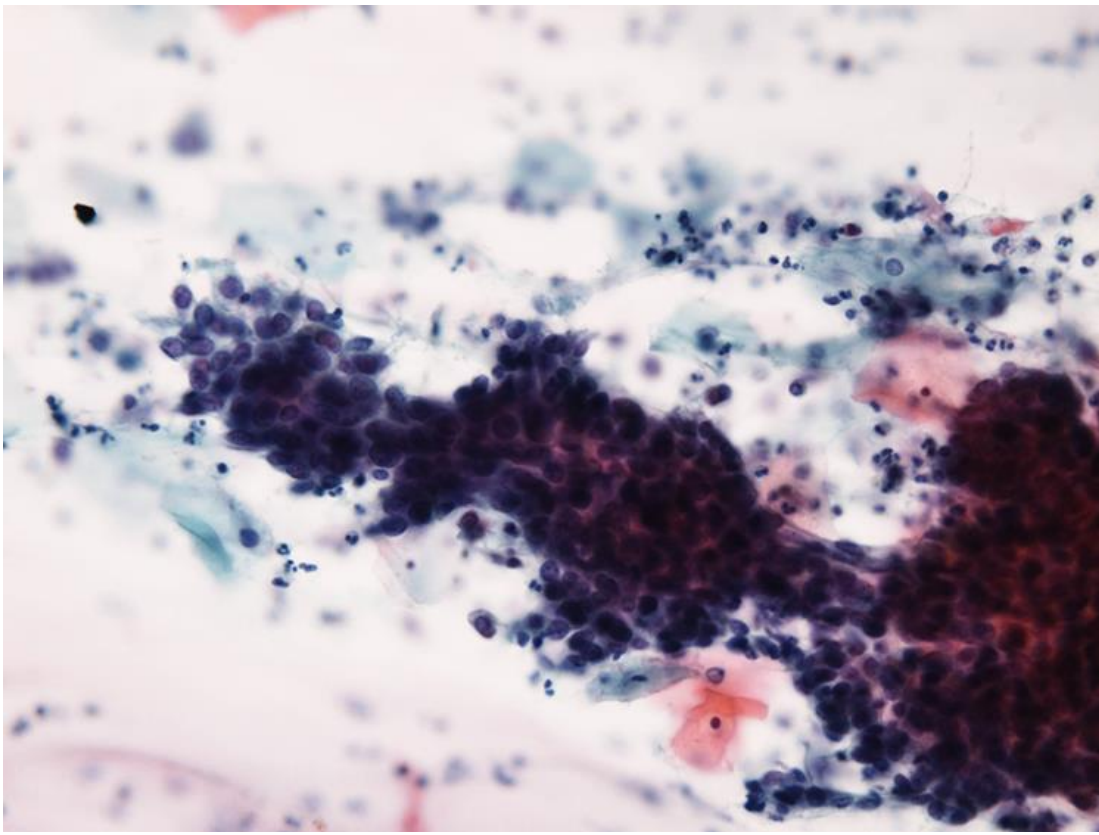
性別 : 女性

臨床所見 : 子宮頸癌の疑い

検体 : 子宮頸部擦過(ブラシ)

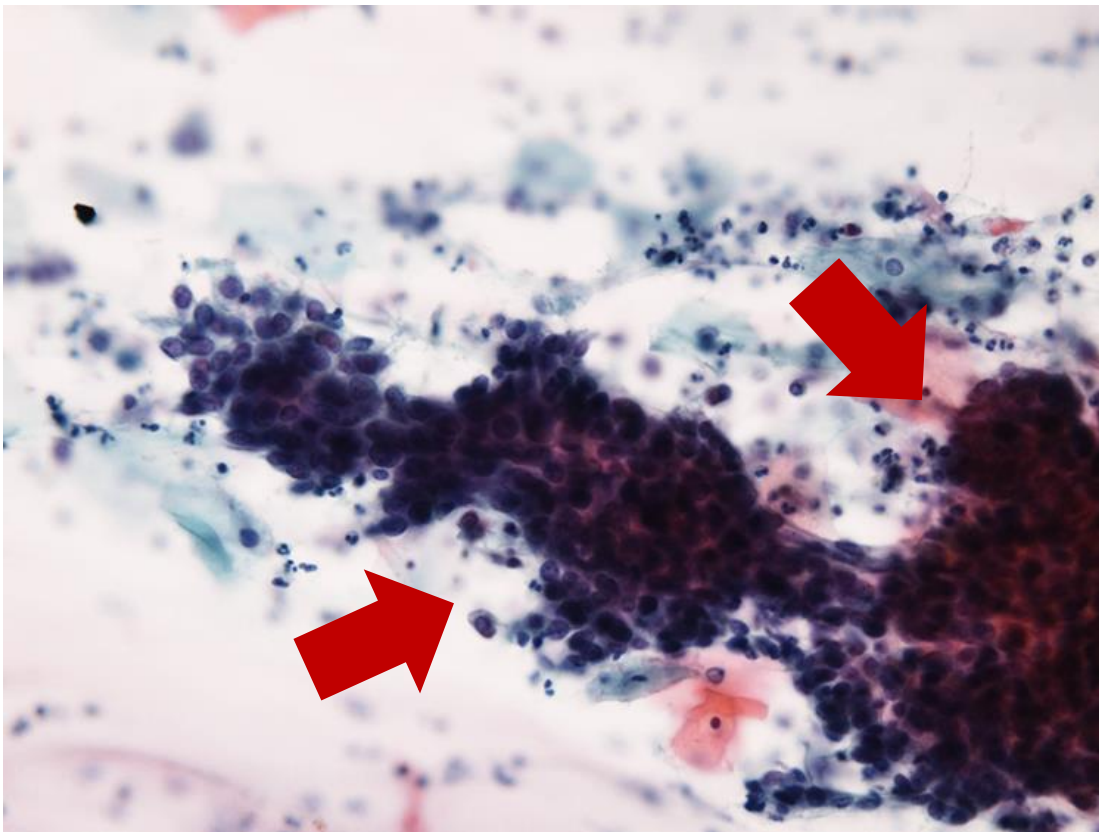
推定病変	件数	%
NILM: 扁平上皮化生細胞	0	0
LSIL: 軽度異形成	0	0
HSIL: 高度異形成	18	31
SCC: 扁平上皮癌	3	5.2
Adenocarcinoma: 腺癌	37	63.8





- ✓ N/C比の大きい傍基底型細胞が立体的集塊にて出現
- ✓ 核は円形で、中心性、軽度の大小不同、核クロマチンは細顆粒状に増量し、不均等分布を呈する
- ✓ 核縁の肥厚や核小体は認められない
- 傍基底型の核異常細胞で、N/C比が極端に増大(80%以上)していない、核の緊満や核縁の肥厚に乏しい

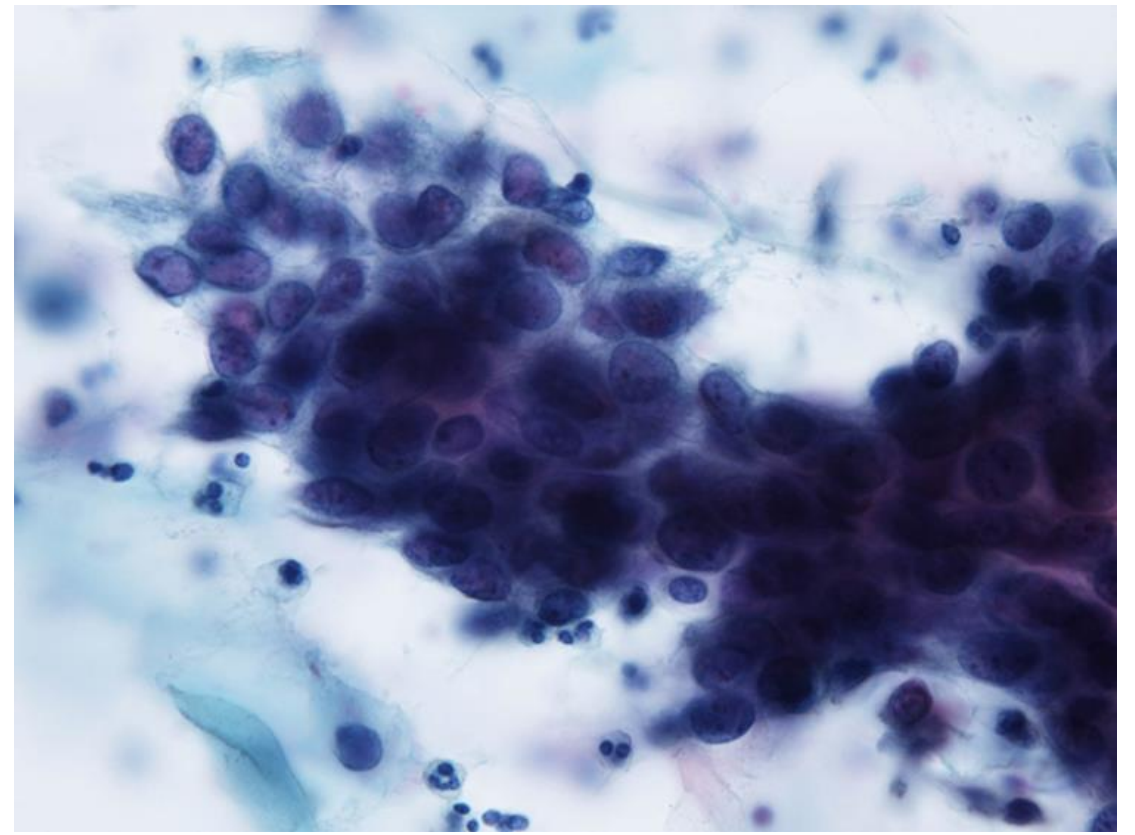
正解：高度異形成(上皮内癌寄り)



立体的集塊で乳頭状様構造とみえるが...

高円柱状の細胞形態、核の偏在性は
明らかではない

流れのある配列を把握しにくかった



採取器具

ブラシやヘラ擦過の場合

細胞が細胞集塊で出現する傾向

にあることに留意する必要がある

設問5

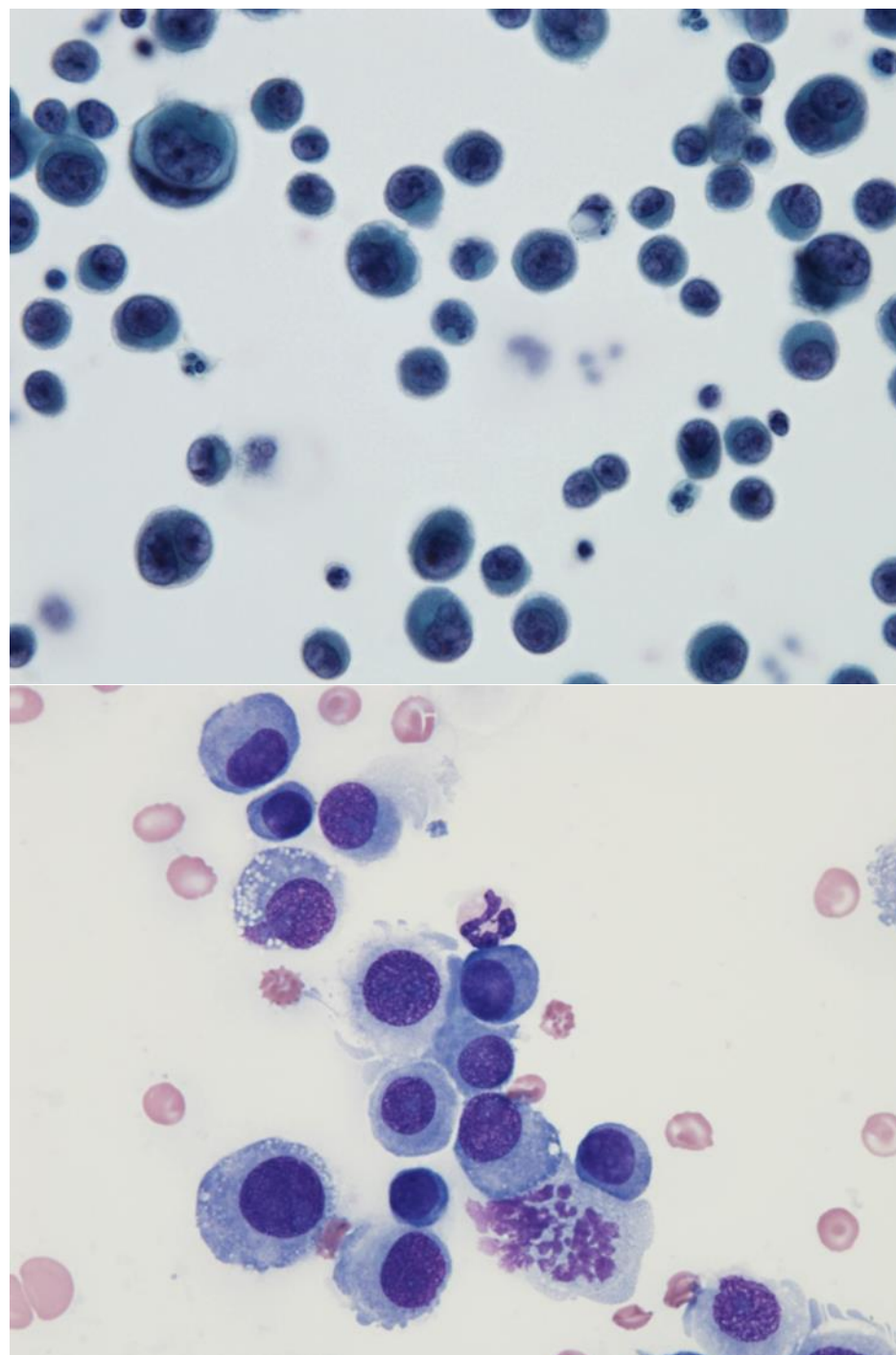
年齢 : 60代

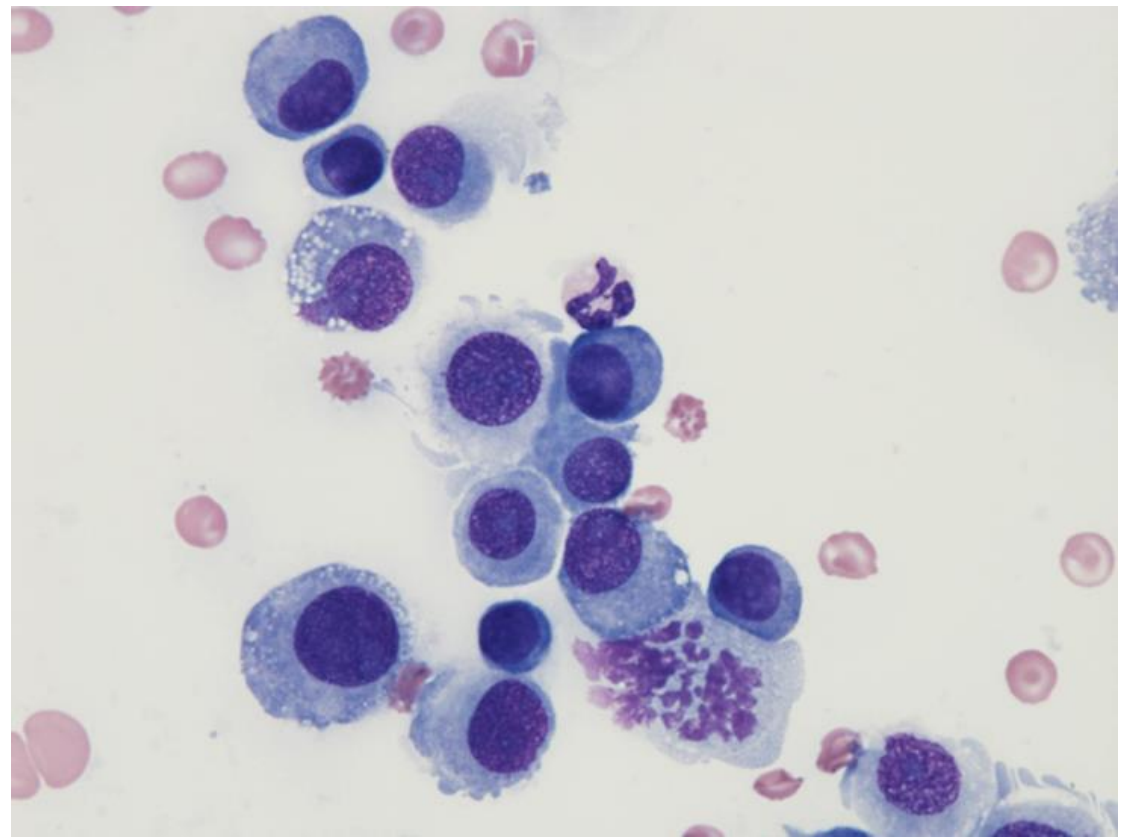
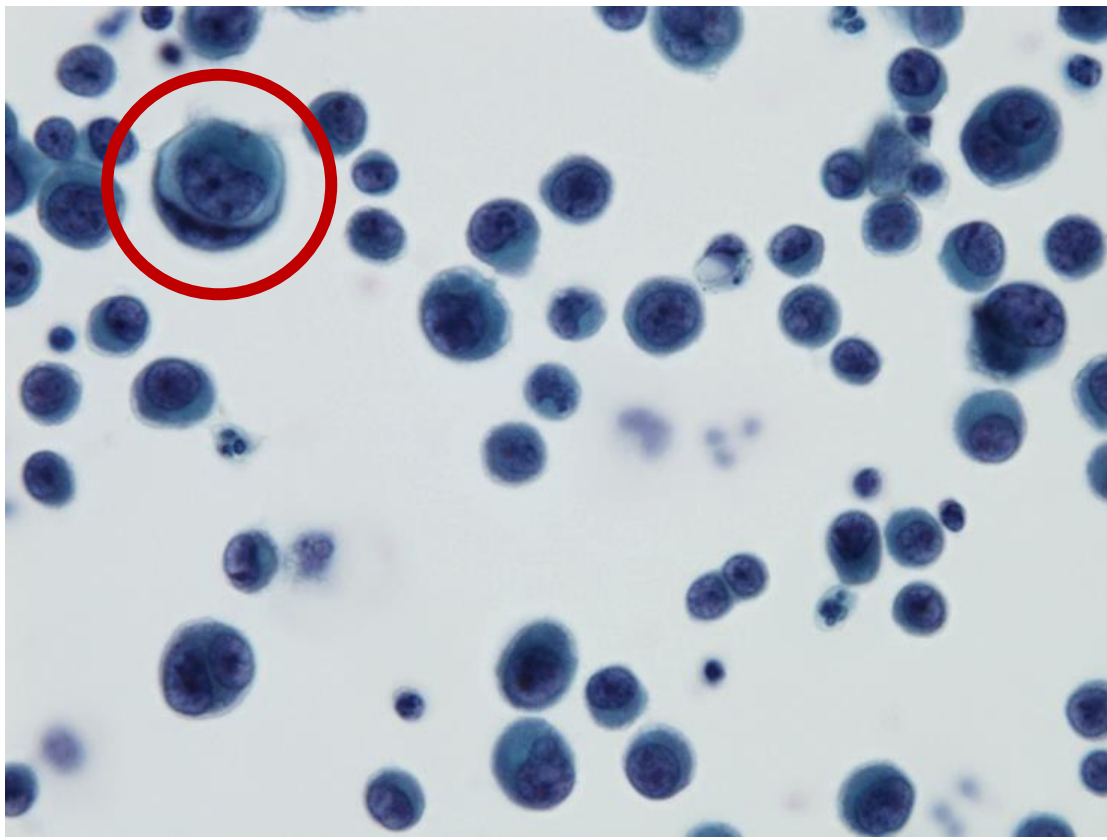
性別 : 男性

臨床所見 : 悪性リンパ腫

検体 : 腹水

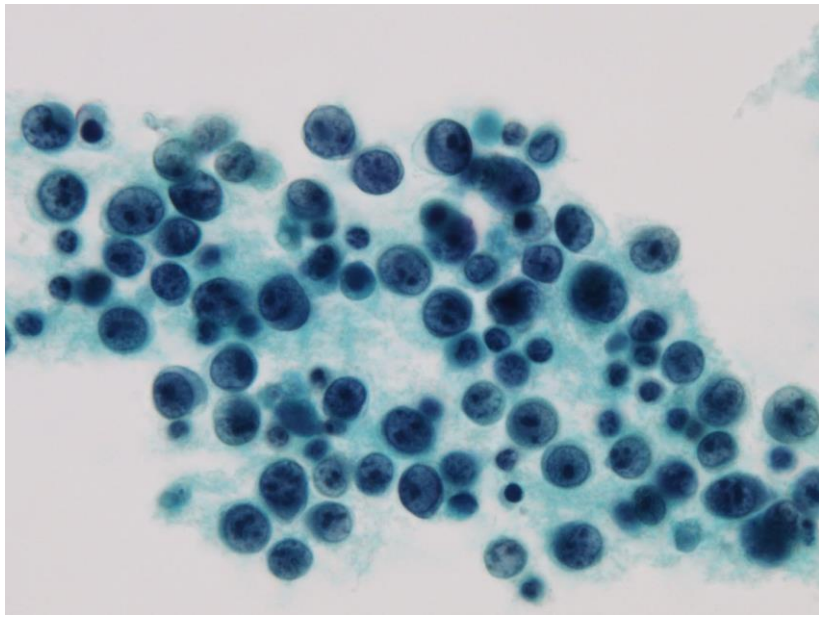
推定病変	件数	%
反応性中皮細胞	8	13.8
腺癌	38	65.5
小細胞癌	0	0
悪性中皮腫	5	8.6
悪性リンパ腫	7	12.1



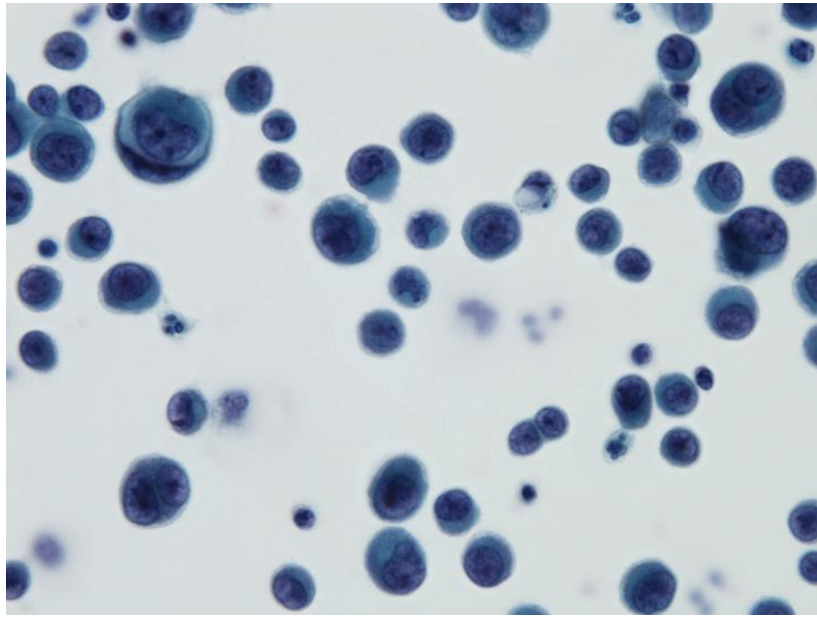


- ✓ 核の偏在性を示す類円形細胞が孤立散在性に出現
- ✓ 一部に相互封入像を認め、**上皮性結合(赤丸)**を示す
- ✓ N/C比が大きく、核に緊満感があり、核形不整、小型核小体を認める
- ✓ Giemsa染色では、悪性リンパ腫に比して核偏在性を示す類円形核で顕著な核のくびれや切れ込みは認めない
反応性中皮細胞は、核中心性で好塩基性が強い

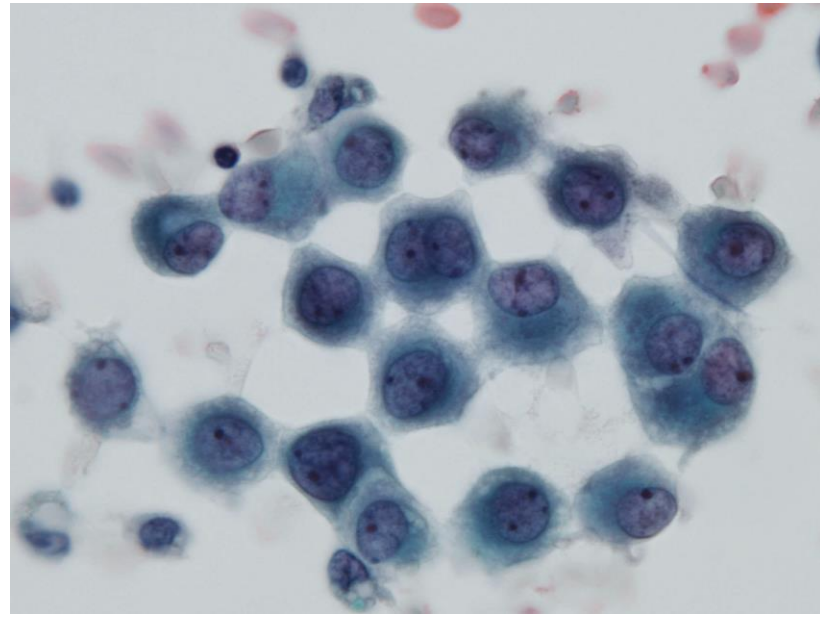
正解：腺癌



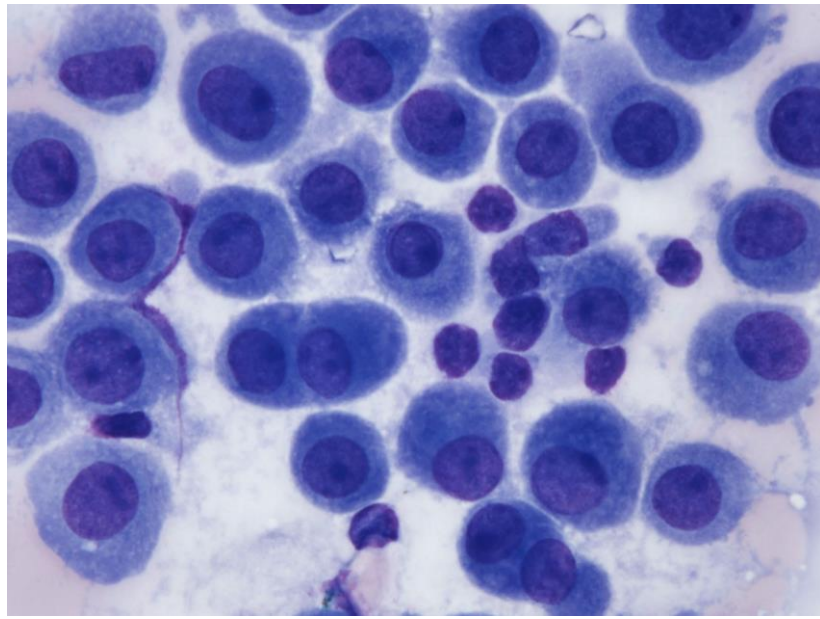
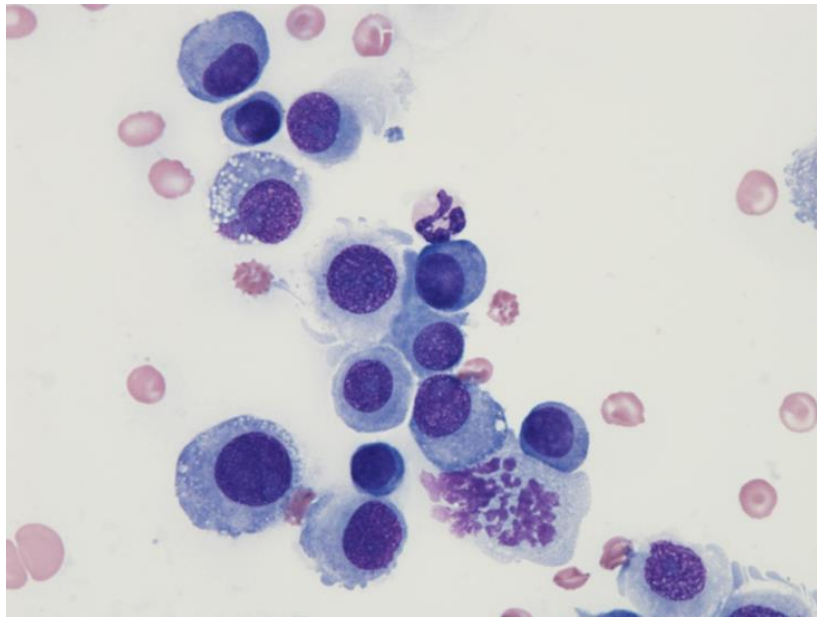
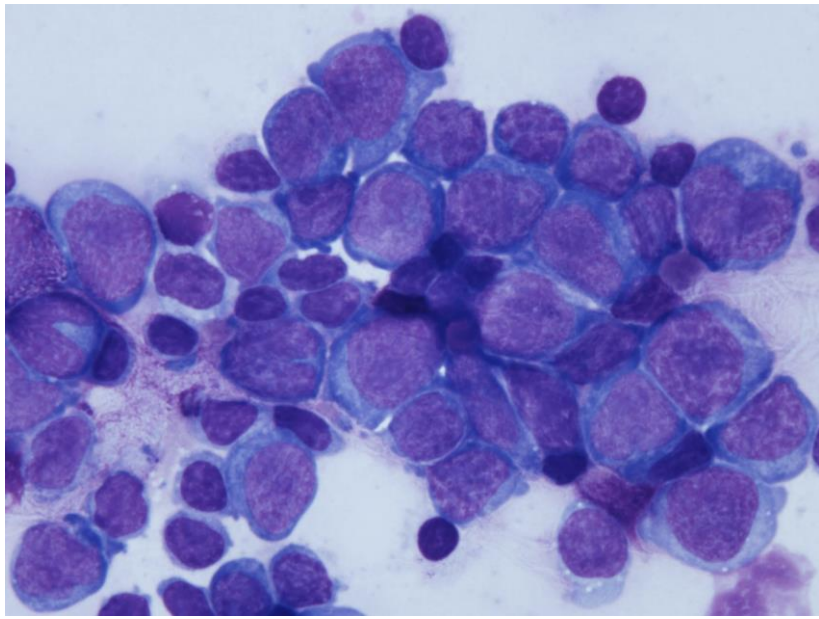
悪性リンパ腫



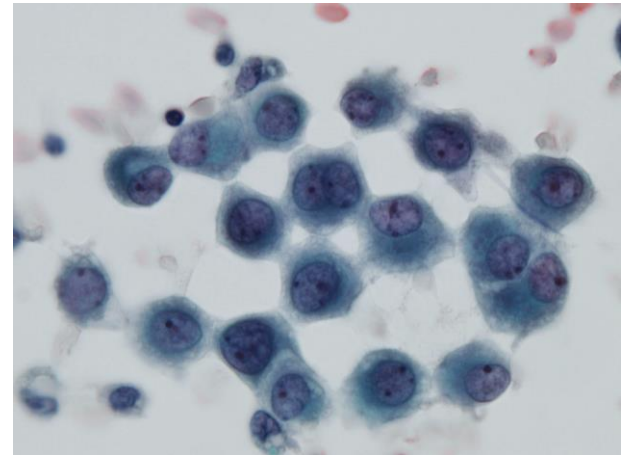
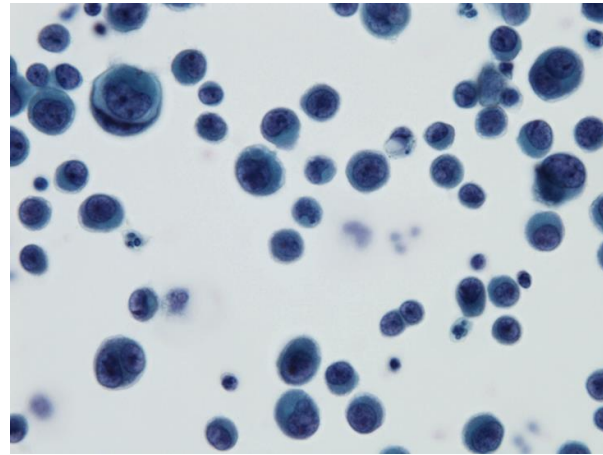
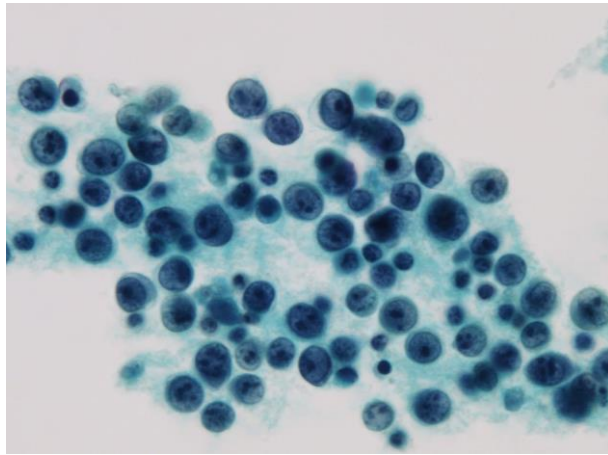
腺癌(本設問)



反応性中皮細胞



鑑別対象



	悪性リンパ腫	腺癌(本設問)	反応性中皮細胞
出現様式	孤立散在性	孤立散在性	孤立散在性～小集塊
結合性	なし	あり(乏しい)	あり
核	小型類円形 中心性	小型類円形～腎形 偏在性	類円形～橢円形 中心性
核異型	軽度～高度	軽度～高度	なし
核クロマチン	微～粗顆粒状	微～細顆粒状	微～細顆粒状
核小体	一部明瞭	一部明瞭	明瞭(小型)
N/C比	極めて大きい	小～大きい	小～大きい
細胞質	狭小～裸核状	少～豊富	豊富

設問8

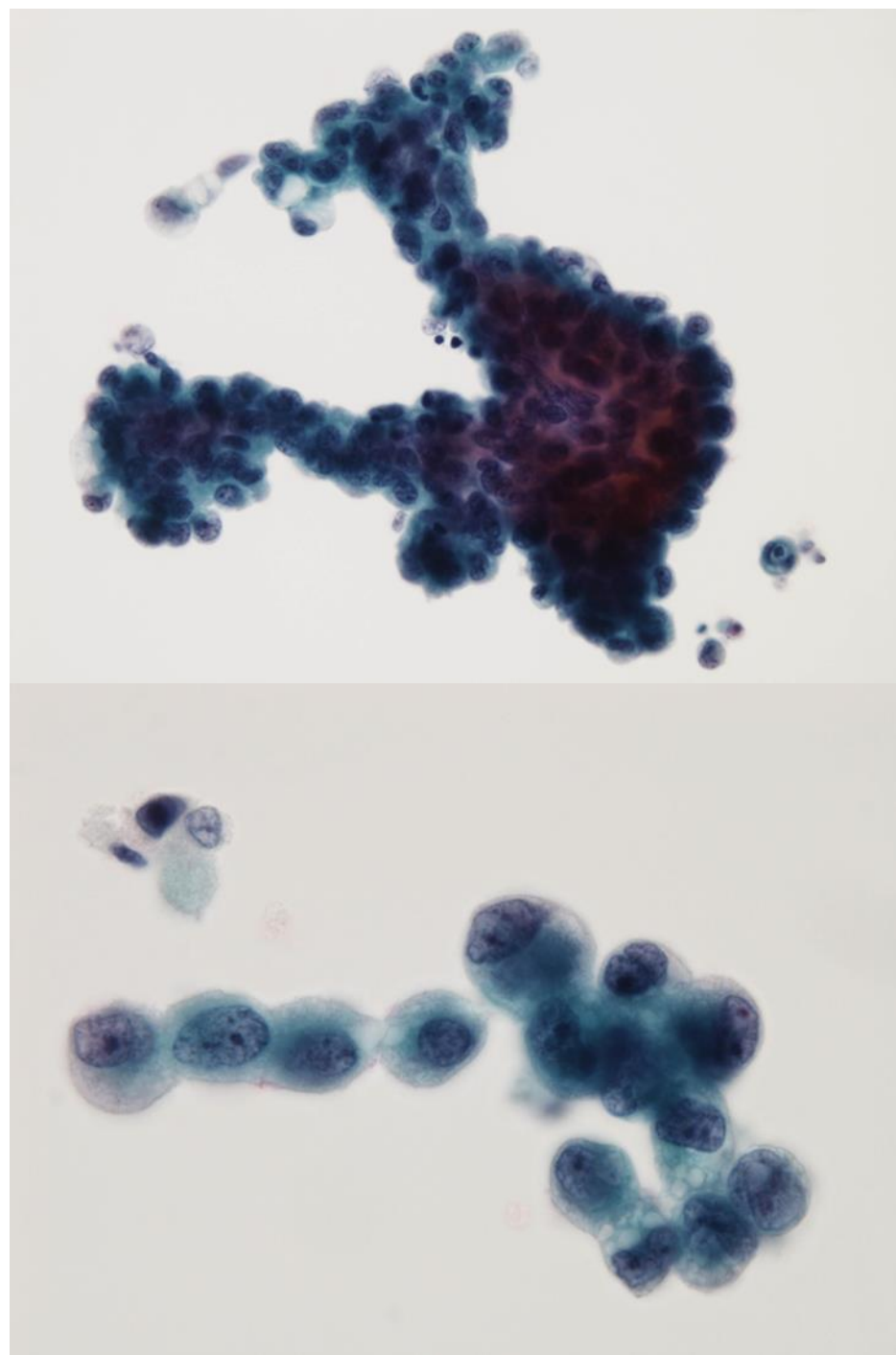
年齢 : 70代

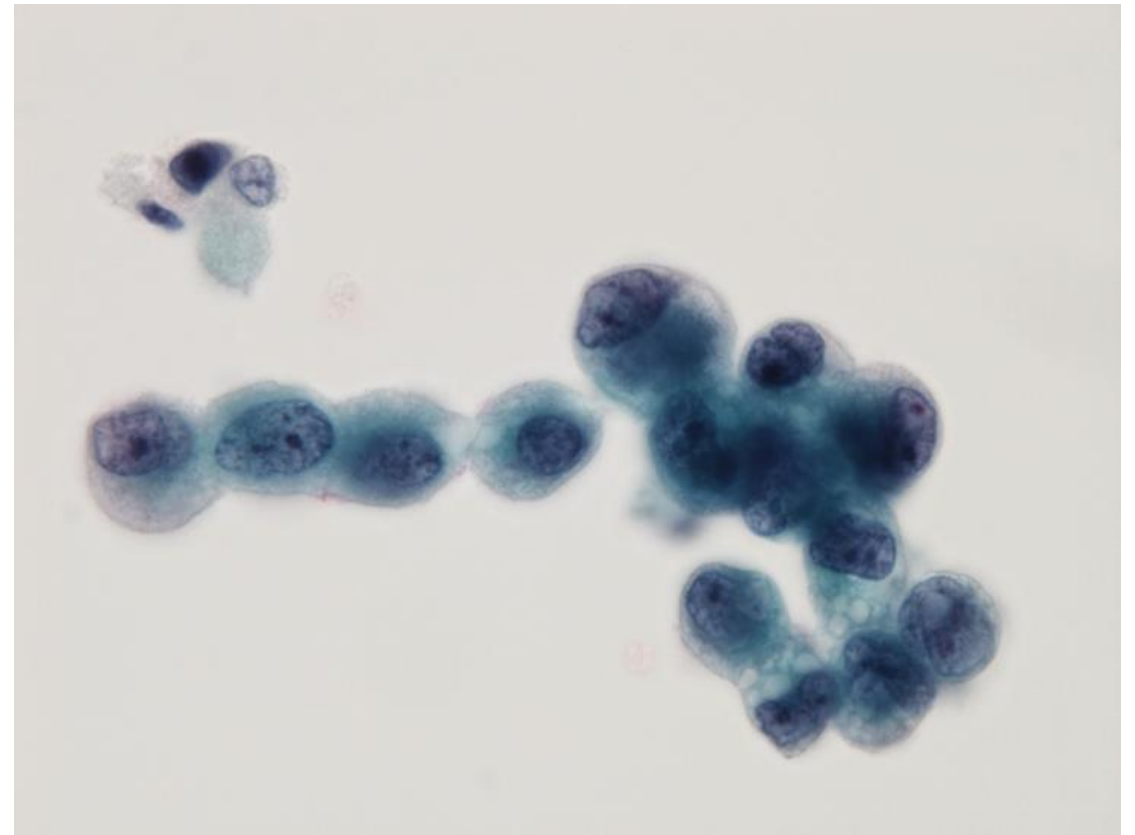
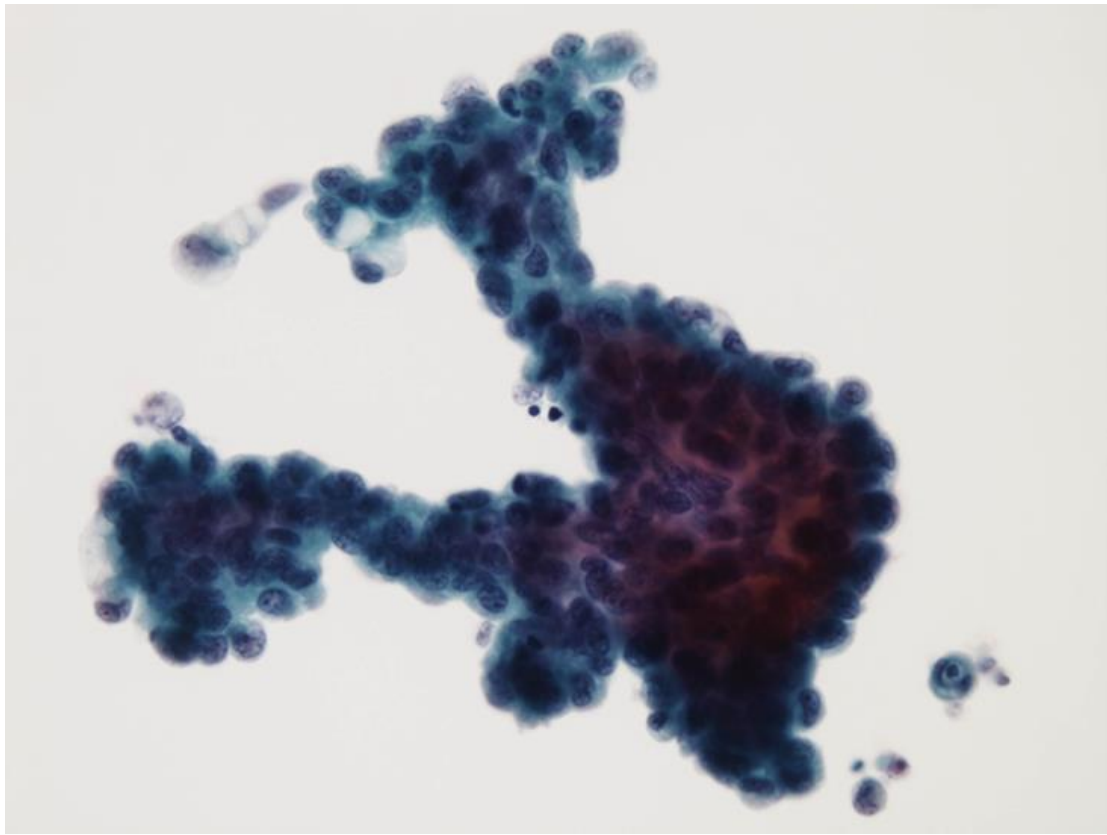
性別 : 男性

臨床所見 : 膀胱癌疑い

検体 : 左分腎尿(LBC:ThinPrep®)

推定病変	件数	%
良性尿路上皮細胞	0	0
低異型度尿路上皮癌	11	19
高異型度尿路上皮癌	46	79.3
扁平上皮癌	0	0
腺癌	1	1.7





- ✓ 異型細胞集塊は、集塊形の不整や辺縁の凹凸不整を呈する。核は重積性を示し、一部にとび出し像も認める
- ✓ 異型細胞の核は $15\mu\text{m}$ 以上で、N/C比が大きく、類円形ないし核形不整を呈し、核の偏在性を認める

正解：高異型度尿路上皮癌

高異型度尿路上皮癌(HGUC)

HGUCの判定基準については、日本臨床細胞学会から、「泌尿器細胞診報告様式2015」が発刊された

□ HGUCの判定基準

1. 核クロマチン増量(または核濃染) ※特にHGUCでは必須所見
2. 核形不整
3. N/C比大
4. 核偏在
5. 核腫大

□ HGUCを示唆する細胞集塊の特徴

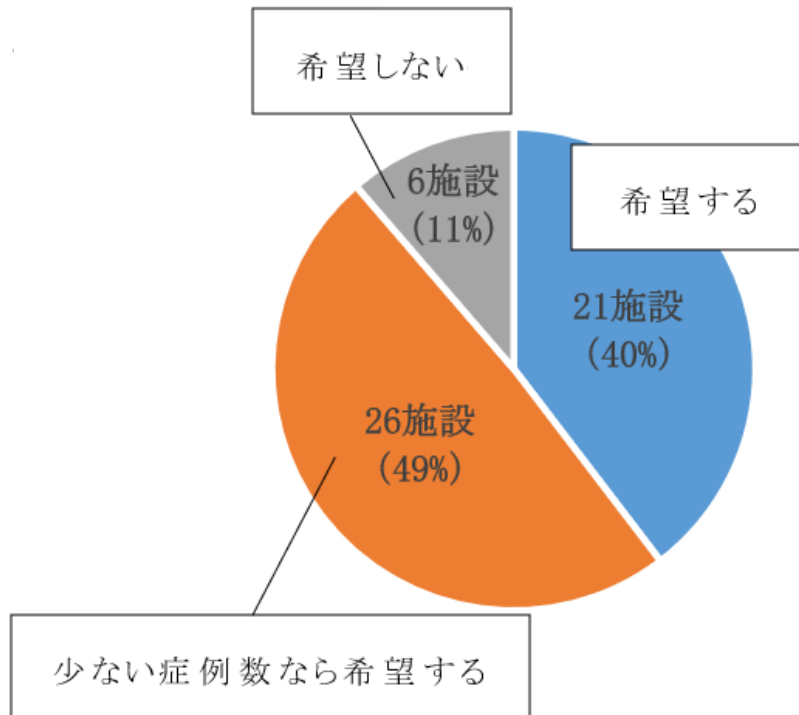
集塊形の不整、辺縁の凹凸不整、核のとび出し、緩い細胞結合性、核重積性、集塊内の核片(アポトーシス小体)

アンケート調査について

- LBC(液状化検体細胞診)標本について、実施状況の把握や精度管理調査項目への追加の有無を目的に、アンケート調査を実施した。
- 回答設問施設総数は、**58**施設であった(設問によって回答数が異なる)。
- 今後も、ニーズにあった精度管理調査の構築のためにアンケート調査を継続していく予定です。参加される施設に、ご協力していただけると幸いです。

アンケート調査結果

今年度のフォトサーベイにおいてLBC標本の症例を1題出題させていただきました。来年度もLBC標本から出題することを予定しています。出題を希望されますか。



希望する **40%** (21/53施設)

少ない症例数なら希望する **49%** (26/53施設)

希望しない **11%** (6/53施設)

アンケート調査結果

出題してほしい試料、してほしくない試料がございましたら、教えてください
(複数回答可)。

出題してほしい試料

試料	施設数
婦人科(子宮腔部、子宮頸部)	39
婦人科(子宮内膜)	4
泌尿器科(自然尿、分腎尿)	2
その他	2

出題してほしくない試料

試料	施設数
婦人科(子宮内膜)	12
喀痰	6
体腔液	6
胆汁	1
乳腺	4
唾液腺	1
その他	7

まとめ

- 正解率が**80%を下回った設問は3問**（設問1:31%、設問5:65.5%、設問8:79.3%）であった。
- 正解率の低かった設問については、1設問につき1～3枚の写真という限られた情報から病変を推定する所見を見出すのが難しかった点、Papanicolaou染色のみでは病変の鑑別に苦慮する可能性がある点などが考えられた。
- アンケート調査では、LBCにて標本作製した症例からも出題の希望が89%と多かった。
- LBCを導入していない施設(29%)もあるため、希望の多かった婦人科（子宮腔部、子宮頸部）から出題したいと考える。

設問の解説やアンケート調査結果の詳細は
精度管理調査総括集をご確認ください

細胞検査部門精度管理調査にご参加いた
だきありがとうございました

